

## ◎景気ウォッチャー調査[2022年10月]

### 2022年10月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を2.4ポイント上回る50.6となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「全国旅行支援や県民割の影響で来客数が増加している。」(都市型ホテル)、「新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため、来客数が前年を上回って推移している。」(百貨店)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.4ポイント上回る50.4となった。

企業動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「記録的な円安や原油高で、企業における材料費や運送費、電力費が高騰し、価格転嫁が起きることで、厳しい状況が続いている。一般消費者の消費財も同様に値上がりし、購買意欲が低下気味であることから、景気がやや悪くなっている。」(木材木製品製造業)、「受注動向が悪化してきている。」(鉄鋼業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.8ポイント下回る47.7となった。

雇用関連は、「年度替わりに向け、各企業は中途採用計画を練っている。また、年末年始の短期案件も増加している。」(民間職業紹介機関)、「製造関係の求人数が増加しており、製造業を中心に景気は回復傾向にある。」(学校)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.9ポイント上回る57.8となった。

	10月	9月	前月差
合計	50.6	48.2	2.4
家計動向関連	50.4	47.0	3.4
企業動向関連	47.7	48.5	-0.8
雇用関連 (参考値)	57.8	55.9	1.9

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.5ポイント下回る48.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」の回答の割合が減少し、「様々な商品の値上げが続き、家計を圧迫していくので、客の財布のひもが固くなり、今後は景気が後退する。」(スーパー)、「全国旅行支援が終われば一気に問合せが減少する。支援の延長や予算の追加がないと、景気はやや悪くなる。」(観光型ホテル)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.5ポイント下回る48.1となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「発注量が増えているため、今後、景気は良くなる。」(輸送業)、「販売先からの内示情報が若干上向いているため、今後、景気はやや良くなる。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.9ポイント上回る51.5となった。

雇用関連は、「海外からの旅行客が増え、円安効果に伴う観光客の需要が高まる。」(求人情報誌製作会社)の理由から、「良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント上回る50.0となった。

	10月	9月	前月差
合計	48.9	49.4	-0.5
家計動向関連	48.1	50.6	-2.5
企業動向関連	51.5	45.6	5.9
雇用関連 (参考値)	50.0	48.5	1.5